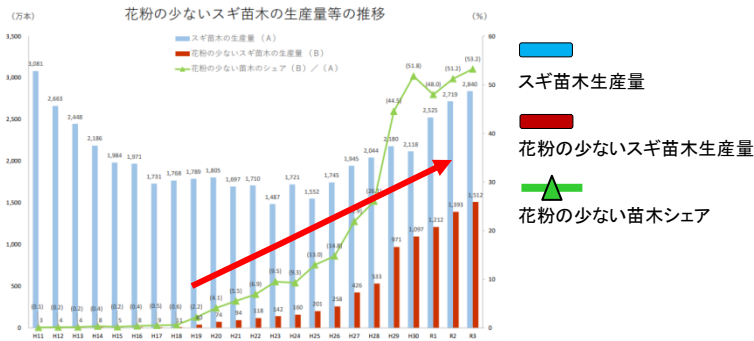


花粉発生源対策品種の挿し木生産技術の開発 (R7~11年度)

現状

- 国民の4割が国民病と言われている花粉症に罹患している状況にあり、花粉の少ない苗木の需要が高まっている。
- 本県では県産無花粉スギが開発され、種子生産を実施し、苗木の出荷が始まっている。
- しかし、苗木生産において交配種による無花粉スギの選抜のための手間とコストが掛かり、苗木生産者の負担が大きくなっている。
- 苗木生産者の生産意欲を高めるためには、特性や品質が確保された効率的な挿し木によるクローン増殖が必要不可欠である。



▲花粉の少ないスギ苗木生産量等の推移 林野庁調べ (R4.3.31現在)



▲苗木生産者による雄花着花促進のためのジベレリン処理



▲苗木生産者による県産無花粉スギの検定状況



「新たな挿し木苗生産技術の開発」が望まれる。

課題

1. 花粉発生源対策品種の効率的な苗木生産
2. 苗木生産の省力化



▲採穂した穂木 (県産無花粉スギ)



▲挿し床による挿し木 (従来方法)



▲県産無花粉スギクローン苗

研究内容

1. 新たな挿し木苗生産技術の開発

- ・農業分野で利用されている技術の活用
- ・効率的かつ省力化が図れる手法の開発



▲農業分野で利用されている水耕栽培 (イメージ写真)

2. 花粉発生源対策品種の優良系統の選抜

- ・県産無花粉スギや特定母樹の系統別発根率調査
- ・初期成長や材質・強度に優れた系統の選抜

目標および期待される効果

- 挿し木苗生産拡大による花粉の少ない苗木の生産拡大
- 花粉の少ない森林づくり
- 花粉症の軽減